

渡島農業の沿革史

西暦	年号	年	記 事
1189	文治	5	源頼朝に敗れ、奥州藤原氏の残党多く渡島する
1562	永禄	5	亀田村で畑を開き野菜をまく
1640	寛永	17	兵次郎という者濁川村阿(現北斗市清川)に畑を開き、ひえ・粟・きびの3種をまく
1669	寛文	9	松前藩主の命により、文月及び大野で米を試作
1684	貞享	元	佐々木佐四郎、南部七戸から神山村(現函館市)に移住し、農業を営み、荒野を開く
1685	"	2	文月村字押上(現北斗市)の高田吉右衛門、水田を開き米作を試みる
1692	元禄	5	南部の野田村から移住した農民、作右衛門、文月村字押上に450坪の田を開き、10俵の米を収穫
1697	"	10	夏、東部大野に新田を開く
1739	元文	4	松前藩主11代邦広、福島村と大野村に新田を開かせた。しかし、4年後には廃したという
1779	安永	8	松前広長、秋田の農夫、成田弥助を使役して東部福島村に新田を開いたが稔らず
1780	"	9	前年に引続き、津軽から農夫を入れて田を耕作し、米20俵余収穫
1781	天明	元	前年に続いて早稲を作らせたが、凶作で稔らず、失敗し中絶する
1800	寛政	12	幕府、文月、干代田、一本木(いずれも現北斗市)で稲作を試み、結果良好
1805	文化	2	箱館奉行の手により、大野村庚申塚に90町歩、文月に50町歩開田。私田134町歩あり、畑は、濁川(現北斗市清川)に15町歩、庚申塚3町5反歩、文月に1町5反歩を開く。文化5年以降、新墾中止となる
1845	弘化	2	木村武右衛門、現北斗市で初めて稲を作り、玄米3石1斗を収穫
1855	安政	2	稲作開びやく以来の豊作。箱館奉行、自営をもって亀尾地方(現函館市)で水稻早生種を栽培し、結果良好
1856	"	3	稲作農家急増。幕吏、命を帯び、農民70余戸をつのり、瓜谷(現木古内町)に水田を開く
1857	"	4	アメリカ貿易事務官ライス、箱館に来てアメリカ作物の種子を奉行に贈り、市内で野菜を栽培する 箱館奉行支配組頭、河津三郎太郎、七重村に官園を設け、松・杉苗その他薬草を栽培し薬園と称する。 4.18、奉行、馬鈴しょを多く耕作するようにと達しを出す 中島郷(現七飯町)に越後から農民5戸移住
1858	"	5	栗本瀬兵衛、薬園を管掌し、着々経営を進める。新井小一郎の募集した農夫105名、長万部付近4ヶ所に入植。新妻助惣ほか二宮尊徳の方法により鶴野(現七飯町)に農民を募って移住
1859	"	6	箱館奉行、箱館地方の造田、用水路、掘割造成に費用を貸し付け開墾を奨励する
1870	明治	3	12月、七重開墾場(七重官園)を設置する
1878	"	11	11月、徳川慶勝、八雲に入植
1886	"	19	米大豊作、亀田・上磯・茅部3郡の耕地9,631町歩、農家戸数3,646戸
1902	"	35	稲作、記録的な大凶作、渡島地方反収5kg
1911	"	44	10.24、大野村で第1回果実、野菜品評会開催、水田作付面積3,660町歩内外、果樹、りんご2万本、和なし1,300本、ぶどう5,000本程度
1971	昭和	46	稲作転換対策(米の生産調整)本格実施
1975	"	50	水稻品種「巴まさり」本道初の指定銘柄米となる
1980	"	55	稲作、凶作、10アール当り収穫量173kg
1993	平成	5	水稻、戦後最大の大冷害、作況指数「3」
1994	"	6	水稻、一転して大豊作、作況指数「109」
1997	"	9	農家戸数、5千戸を割る(4,994戸)。 南部8農協の野菜の統一ブランド「函館育ち」の出荷開始(長ねぎ、ほうれん草)
1998	"	10	2月、北部3農協(落部、八雲町、長万部町)が合併し、「北渡農協」が発足 道南(渡島・檜山)産米の統一ブランド「函館育ち」の販売開始
2000	"	12	北斗市に広域ライスターミナルが9月完成、高品質米を出荷
2002	"	14	渡島・檜山管内の13農協が合併し、「新函館農業協同組合」(略称JA新はこだて)を設立
2003	"	15	平成5年以来の冷害、水稻作況指数「44」
2004	"	16	道南農業試験場で開発された水稻品種「ふっくりんこ」の本格的な作付開始 台風15号・16号・18号により大きな農作物被害を受ける
2005	"	17	水稻、作況指数「108」の大豊作
2010	"	22	知内町産のニラ販売額10億円突破
2011	"	23	北斗市産のトマト販売額10億円突破
2013	"	25	農薬節減米「きたくりん」一般栽培始まる
2014	"	26	米の食味ランキングで「ふっくりんこ」が初の「特A」獲得
2017	"	29	石狩、後志、道南、いぶり、日高のNOSAIが合併し、「みなみ北海道農業共済組合」(略称NOSAIみなみ)を設立